

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	福岡第2法務総合庁舎	階数	地下1F、地上8F
建設地	福岡県福岡市中央区六本松4丁目	構造	SRC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	700人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,500時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年12月 予定	評価の実施日	2016年8月18日
敷地面積	13,000㎡	作成者	中澤大
建築面積	3,752㎡	確認日	2016年8月25日
延床面積	24,388㎡	確認者	市川卓也



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.4

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.5

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.5

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.6

3 設計上の配慮事項		その他
<p>総合</p> <p>「緑を中心とした町並み形成への貢献」と「地域の生活向上」を図るとともに、「検察の理念にふさわしい庁舎の顔づくり」と「実効性の高い環境負荷低減」を併せ持つ法務総合庁舎としてのアイデンティティを形成する施設とする。「建設品質の向上」と「経済性の向上」を両立し、効果的に環境負荷(CO2排出量)を低減することで、地球環境にやさしい施設づくりを行う。</p>		0
<p>Q1 室内環境</p> <p>中庭を活用した自然採光・通風により室内環境の向上を図る。窓面積は採光に必要な最小の大きさとし断熱性能を向上するとともに、小底を設けることで、奥行きのある執務空間に間接光を入れる計画とする。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>検察庁の業務特性を踏まえて、書庫の拡張を見据えた重荷重対応エリアを計画する。構造体や設備幹線と、間仕切りや設備機器とを明確に分離し、将来の改修・改善工事をしやすい計画とする。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>整形でコンパクトな建物配置とすることで、敷地内に十分な空地・緑地を確保し、良好なアプローチ空間を創出する。通り抜け通路やシンボル空間(敷地内の四周の公開空地)に樹木を整備し、良好な歩行空間を創出する。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>東西南北の4つの空調ゾーンを設定し、条件に応じた最適運転を行うことで、空調設備にかかるエネルギーを削減する。空調室の分散化とDS・PSの集約化により、各ゾーンへの空調ダクトや設備配管の長さを最適化し、搬送エネルギーの削減を図る。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>玄関ホールなどの内装仕上材に木材を積極的に利用し、炭素を固定化することで、CO2排出量の削減を図る。鉄骨造を主体とする構造計画により、RC造と比較して型枠や支保工などの仮設資材や現場作業を削減し、建設時の環境負荷低減を図る。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>8階屋外機の騒音・排熱・景観を考慮し、3.5mの目隠し壁を整備する。また、メインの屋外機は北西側に配置し、南東側の住宅地に配慮した計画とする。建物と南東側の住宅地の離隔距離を十分確保し、住宅地側に植栽帯を配することで緑の緩衝帯を整備する。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される